

# 南西諸島における外来亀の侵攻

嶋津 信彦

しまづ外来魚研究所・株式会社島嶼生物研究所

南西諸島に分布する陸生・陸水生カメ類は、イシガメ科 *Geoemydidae* のクサガメ *Mauremys reevesii*, ニホンイシガメ *M. japonica*, ミナミイシガメ *M. mutica*, セマルハコガメ *Cuora flavomarginata*, リュウキュウヤマガメ *Geoemyda japonica*, ヌマガメ科 *Emydidae* のアカミミガメ *Trachemys scripta*, スッポン科 *Trionychidae* のニホンスッポン *Pelodiscus sinensis* の計 3 科 7 種である。これらのうちクサガメ, アカミミガメ, ニホンスッポンは外来種である。他の 4 種は, 南西諸島に自然分布域を持つ。しかし、一部は、自然分布域外の島や地域に導入され、定着している。イシガメ科の推定交雑個体も野外から見ついている。これらの分布情報は、外来カメ類の定着、在来カメ類への競争や交雑による影響などを評価するために不可欠である。本研究では、文献調査と現地調査により南西諸島における陸生・陸水生カメ類の分布を明らかにした。

陸生・陸水生カメ類の分布記録は、1891-2015 年に発行された文献 192 報および新聞記事などから抽出された。結果、35 島から報告されており、在来カメ類の分布域や鹿児島県の島嶼および大東諸島では近年の詳細な記録が不足していた。

現地調査は、2015 年 5-10 月に計 43 島で行われた。分布の確認は、カニ網を主とし、手網または素手による採集、および目視により確認された。結果、31 島から延べ 2,031 個体が確認された。外来カメ類は、セマルハコガメとリュウキュウヤマガメを除き各種ではじめて記録された島があり、分布拡大が示唆された。一方で再確認されず、絶滅または定着困難な状態と推測される集団もあった。クサガメは、喜界島を除き少数または局所的に確認された。喜界島ではニホンイシガメとの推定交雑個体と共に多数確認された。ニホンイシガメは、自然分布域の種子島では広域から多数確認された。他の島における本種の定着は、確認個体数が少ないため、認められなかった。ミナミイシガメは、沖縄県の多くの島嶼から確認された。クサガメとミナミイシガメの推定交雑個体は、3 島で推定親種とともに確認され、自然下で交雑したと示唆される。同交雑個体は、ミナミイシガメの自然分布である石垣島、西表島および与那国島では確認されなかったが、クサガメが確認された石垣島では今後確認される可能性が高い。リュウキュウヤマガメは、自然分布域である渡嘉敷島から 1 個体も確認されなかった。多数確認された外来種リュウキュウイノシシに捕食されている可能性もある。また、本種の自然分布する沖縄島北部からクサガメとミナミイシガメが確認されておりこれらとの交雑による遺伝子汚染が危惧される。アカミミガメは、沖縄島の一部や宮古島、伊是名島、大東諸島では高密度で確認された。ニホンスッポンは、4 島で再確認できず、新たな分布も確認されなかったことから、分布の縮小が示唆される。